

# フレールベル自傳

(第六回)

《マイニンゲン太公に宛てたる書翰》

倉橋惣三 譯

三十九、哲學

私が今記した仕事を終つて後ある小さい私有の土地の測量が私の手でなるべく任かされました、この仕事から私にとつて最も重大な結果が引續いて起りました。

私はこゝでは只一つの點を記すに止めませう。この土地の連帶所有者の一人に若い哲學博士が居りました。その人は新シエリング派に傾いて居りました。

私達が私達の内的生活を目覺めさせるやうな話をしなかつたとは思はれないであります。誠にさうでありました。彼は私にシエリングの「ブルーン、オーダー、ユーベル、デイ、ウエルト」

ゼーレ」をお讀みなさいといつて貸してくれました。その本で私が讀んだことは深く私を動かしました。而して私はそれが本當に分つたやうに思ひました。

私よりあまり多く年を取つてゐない友誼の厚い若い友は——私達は既にエナで會つたことがあるのでした——私がその本から生き生きして興味を感得してゐることを知りました、而して私は實際それに就て彼と度々物語りました。

或日、私達が一緒にある大きな繪畫展覽會を見に行つて來ての後、彼は私に次のやうなことを言ひました。それは彼の口から途法もなく不可思議に響きました。そして私にはその頃理解し得られ

ないやうに思はれました。

「哲學には近寄らないやうにさい、哲學は君を疑惑と暗黒に導いて行きます。美術に君の一身をお捧げなさい、美術は生命と平和と歡喜とを君に與へます」

私はその若い人の言つたことを覺えてゐたことは事實です。しかし私にはその意味を了解することが出来ませんでした。何故ならば私は哲學を人生の必要な部分をなしてゐるものであると思つてゐました。而して人が靜かに内的生活を檢査する時には暗黒や疑惑に近いてゆくといふ觀念を如何しても捉へることは出来ませんでした。然るに美術は哲學から較べると私とは遙かに離れたものでありました。何故ならば美術の作品から受け入れられる深き喜び（これに對しては私は明瞭な理由を與へることは出来ませんでした）、活動的な美學的の感情のひらめきなどは私の上にまだ芽みませんでした。

私の友である處の博士の言葉はしかながら私に注意を促しました。而して私の生命とその生命の目的にまで私の注意を促しました、而して私に甚だ異つた遙かかけ離れた二種の生活の組織を知らせてくれました。

#### 四十、會者定離

私が事へてゐたバムベルグの官吏の家庭教師をしてゐた私の友はしばらくしてその職を去ることになりました。彼は發するに先立つて、彼がフランスに行くといふことを話しました。

私は悲しみを以て彼の出發を見送りました。茲二三年の間は再び一緒に會ふこともなからうし、又彼が私の未來の生活を間接に定めることもなからうと思つたからです。けれども斯る事柄は生涯の中に屢々起つたので今別れるといふことは又會ふといふことの原となり、會ふといふことは別れるといふことの原となることを知りました。

私の述べた出来事は私の外的生活に影響を與へませんでした、私の外的生活はしばらくの間安らかな進路を取つて行きました。

私は私の性格及び私の道徳的生活の向上發展に逸すべからざる多くの機會を看過します、而して突然バムベルグ滞在の終局に達します。

#### 四十一、新聞紙へ廣告

私は今やもう一度確かな定つた仕事を得べく熱心に私の心を傾けました、本當に未來の事に關しては私はまるきり頼る所がありませんでした。

私は私に助力を與へてくれる人を持ちませんでした。ですから私は神様と運命とのみに頼つて進んで行かうと決心しました。

私は當時廣く讀まれてゐたアルゲマイネ、アンツアイゲル、デル、ドイツチエンといふ新聞に依つて地位を探さうと決めました。而して私の能力の主張の證として建築の設計と陸地測量に於ける私の仕事の見本とに説明書を添へて編輯の手許へ

送つたらよからうと考へました。

この計畫を充分考へて、私は直ちにその仕事に着手しました。

建築の見取圖には私は周圍に離屋を取つて別荘の設計を選びました。不自由勝ちな道具を以て私はそれを仕上げました。それは諸種の欠くべからざる設計から割り出して完全な勞作を示しました。而して長さの比例尺の正確と適合との批判的吟味として私はその中に含まれてゐるすべての細目と條件との記述を加へて置きました。

陸地測量には以前私の描いた地圖から編製せられた測定表を選びました、それは私が任意の假定の下に拵へたのでした。

是等の作品を私の廣告文と一緒に一八〇三年に私は前に記した新聞社へ送りました。私の證明書を讀み私の仕事の出來榮えを調査した上で私の資格に關して確認的の言葉を添へてくれるやうにと編輯者に頼んでやりました。

作品も證明書も二つながら編輯者の意にひ副ました。而して私が編輯者になした添書の要求も受合はれました。

私は數種の申込を受けました、何れにも皆いくらか宛心を惹かれるところがありました。その中から選擇するといふことは困難なことでした。けれども遂に私はメクレンブルグ、ストレリッツのデユウイツツの大統領兼樞密顧問官（當時その領有地の一なるグロスミルホーに在住）の秘書官として私に提供された地位に應ずることに決めました。

残りの申込の中にはフォルデルスドルフの秘書官から來てゐるのもありました。その人はオーベルプファルツにある領有地の會計方を探してゐたのです、この地位は前のやうに私の氣に入りませんでしたけれども私はヘル、フオン、フォルデルスドルフの是等の領有地に赴任してある明記された計畫に依つて當時澤山未濟になつたためた財産管理

人の六ヶ敷い勘定を整理したりして前の地位に對する準備が出来るまでの暇潰しにその地位を選びました。

#### 四十二、帳簿管理方

一八〇四年の一月の始頃、私はオーベルプファルツに向けて出發しました。

併し私は決着的に選んで置いたグロスミルホーに於ける地位に就くべくメクレンブルグに呼ばれることになりました。

私はまだ充分の準備は出来ませんでした。恐しく寒さの厳しい二月の冬枯れに郵便馬車に乗つて其地へ赴きました。

さりながらオーベルプファルツに於ける私の滞在が短くあつたためと自分の従事してゐた仕事となし遂げやうとして不斷に休まずに働いたためとで私がパバリヤで過した時間は私に大層有益な結果を齎しました。

サキンニイとプロシヤから來た巧者な快活な若

い人は大層親切に私を迎へてくれました。彼等の異つた務めの種類と彼等が務めに就て語る模様とで地所持ちの貴族と彼等の従者との間に存する内在關係を詳知せしめてくれました。

是等の事件を思ひ起すと私は私の常にやさしく慈しみ深かつた運命が如何に親切に次いで來るべき天職に對して私を備へさせくれたかといふことを嬉しく思ふのであります。

私は未だ嘗つて大領有地の帳簿の整理方などを見る機會はありませんでした、況んや自身之を整理したことなどはありません、而かも今や私はこの仕事をすることになつたのです。

これは私にとつては大任務でありました。

非常によく整理されてゐる帳簿の管理方が其後私の手にきつかりと委ねられることになりましたそこで今記したやうな大抵の計畫をしつかり胸中に立て、實地に當つてよく練習してみても充分準備が出来たところで私の新しい職務に向つて出發し

ました。

有難いことには私はこの上なく私の主人を喜ばせました。のみならず峻しい注意を以てあらゆる細かな點を調べまわる奥様までもひどく喜ばせました。

ヘル、フォン、デウイツツの領有地の近傍はこの國の該地方にして珍はらく景色が美しくありました。

湖や丘や新緑の木々に富んでゐて自然が手落ちをしたとも思はれるところには人工がこれを補つて居りました。

好運は常に私を自然の美しい眺めの中に連れて行つてくれました。

私が私の新しい仕事に容易さを感じ出すやうになるとその仕事は簡單になつて來ました。毎週繰り返される仕事の運びはキチンと行くやうになりました。而して私は自分を進めて行くための思索の時間を得ることが出来るやうになりました。

けれども此の領有地に於ける雇はれも結局束の間のやとはれであつたのでした。私の生活と嗜好とは早くも變つて來ました。無理にも従はせられるやうな星が私の心の中に瞬き始めたのです。

この結果として私は今では私の雇はれを私の天職に取附く機會が現れると同時に放たるべき副錨に過ぎないといふやうに考へました。

この機會といふのはそれから間もなく現れました。

#### 四十三、叔父ホフマンの死

私の兄と同じ様に常に私を慈しんでくれた私の叔父（ホフマン）が近頃逝くなりました。

叔父は臨終の床に在つても尙私のことを思つてゐてくれました、而して私の兄に私の生活のために全力を盡してある一定の職業を見附けてやるやうに又他に安全な良い雇ひ口を得る望みが出るまではそれまで保つてゐた地位から決して私を去らしめないやうにと吩咐けました。

天命に依つて叔父の遺言とは異つた結果が來ました。

叔父の死はその結果として私に與へられた少額の遺産に依つて私に私の心の一番うれしい望みを充たしてくれる資産を與へてくれました。

神は斯くも不思議に人々の運命を支配し給ふのであります。

此の自傳に於て私の優しい慈しみ深い第二の父と永久に別れる前にある一つの事柄を記さねばなりません。

私がメクレンドルグへの旅行の途次（スタッドイルムに於て）最後に叔父に會つた時に私は叔父と話をして深い喜びを得ました、丁度信する父がその成人した息子と話す様に、私は愛情のあらゆる絆きずなによつて叔父に結びつけられて居りました。

叔父は腹藏なく少年時代に現れてゐた私の缺點を擧げて、そのために叔父が種々心配したことなどを話しました、而して這麼風にして私が叔父の

家へ引取られた當時のことや又その原因などに逆つて行きました。

叔父は「俺はお前の阿母さんを大層愛してゐた、本當に彼女が兄妹中で一番可愛かつた、お前に會つて私は彼女がもう一度生れ代つて來たやうに思はれた而して彼女を愛するが故に私はお前の面倒を見て上げたのだ。而してそれまで彼女ばかりに向つてゐた愛をお前にも與へたのだ」と言ひました。

而して母のなしたと聞く多くの親切な事柄を通して母が何様人であつたらうといふ明かな概念までも形作り、眞實に母を思ひ起す様に思はれる程母のことは親しく思つてゐたのですが叔父の懷舊談を聽いて後には以前にも増して母がなつかしくなりました。

何故ならばこの氣高い高尚な第二の父もまた母の賜物でなくて何でありませうぞ。

四十四、より高き修養

私の叔父との會話は私が後年度々確めた——人の現在の行動の源泉若しくは動機といふものは現在より離れて遠く、現在の事情外に横はつてゐてその時人が交渉してゐる人とは全然無關係であるといふやうなことを分らせてくれました。

私はまた自分で生活して行く中に交誼といふものはしつかりしてゐればゐる程長く續き、愈々眞實なれば愈々高き普遍的な特殊の人に關しない源泉から湧き出て來るものであるといふことを幾度も省察しました。

メクレンブルグに於て家中に於ける又家族に於ける席次が私より一つ上であつた人は家庭教師でありました。その人は私よりも先へこの家に来てゐました——ゲツチンゲン大學の學位(ドクターオブ、フィロソフィー)を持つた若い人です。私達は大體から見てもあまり親しくはありませんでした、何故ならばその人は大學卒業生といふことを鼻にかけて高く止まつてゐたからです。

が出来ました。

四十五、興味の建築學

大統領は家にゐる家族の外にハッレの中學校ベツギキョウに二人の息子を持つて居りました。

息子達はその特別教師に伴はれて両親を訪ねました、その教師といふのは後年令名高き學者ウオルワイデ博士として名高くなるべき紳士でありました。

ウオルワイデ博士は數學者でもあり物理學者でもありました、私は氏が自由に打解ける人であることが分りました。氏は大層親切で自身考へるために設けた多くの異つた難問を私に記してくれ且又これを解いてくれました。

これは私の長く眠つてゐた、押付けられてゐた科學としての數學に對する愛及び物理學に對する愛を充分に目覺まして再び躍り上らしてくれました。

近頃まで私の嗜好は漸々と建築學に向つて傾い

けれどもその人を通して私はその地方の僧侶と親しくありました、而してこれは私には利益のあることでありました。

農夫や地方事務官に就て言ふならば彼等の愛想のよい性質はもうそれだけで充分な歡迎となつたのであります。

斯くて私は多面的な交り易い愉快な自由な友誼の中に長く缺乏を感じてゐた方法によつて生活しました。

私は身心智情共に健全で私の思想も亦光明と愉快とに充ちてゐましたので間もなく私の心は再びより高き修養に向つて熱心な希望を感じました。

若い家庭教師は去つてしまひました、而して彼の去つた後には私の修養に對する要求は益々鋭くなつてゆきました、何故ならば私が彼と話すことの出來た智的會話をすることが出來なくなつたからであります。

けれども私は間もなく更らに救濟者を得ること



て行きました、而して私は今やそれを私の職業として、選び以後は都ての熱心を以てそれを學ぼうとしつかり決めました。

私の智的要求と職業の選擇は遂に共に進んで行くやうに見えました、而して私は此の事を思ふと斷えず愉快と幸福とを感じました、私は是等の題目に於て役に立つ最良の書物は何であるかといふことを學者から聞き知る機會を得ました。而して私の第一の心遣ひは是等の書物を得やうといふ事にありました。

建築學は今や熱心に研究されました。而して他の書物も亦放擲されてはゐませんでした。

#### 四十六、愛讀書の數々

次に掲ぐる書物は私に非常に關係の深いものがあります。

プレシユケ著「人類學斷片」(小形の謙遜な本)

「ノバリス全集」

アルント著「獨逸」及び「歐羅巴」

是等の書物の一番始めのは一讀して直ちに親しく思はれました、乃で私は連合せる一體としての自己、私の外的存在、私の内的性格、私の嗜好、及び私の生活の進路を其の中に認めることが出来ました。

私は始めて私自身と私の生活とを私以外の全世界に對照して一個の存在物として確かめることが出来ました。

二番目の本は私の前に深く秘められた情緒、知覺、及び精純な豁達な明瞭な私の最も深き心靈の意志を私の前に排べました。若しも私がその本と別れたならばそれは私が私自身と別れたやうに思ひました。若し何事かその本の上に起つたならばそれは私の上に起つたかの如くに感ぜられました否それよりもつと深く、もつと悲しく感ぜられました。

三番目の本は廣い歴史的關係に於ける人といふものを教へました、一つの完體としての普遍的の

生活を私の前に置きました、而して私が如何に私の國民祖先並びに同時代の人々の兩方ながらに關係してゐるかといふ事を示しました。

併しこの最後の本が私になした利益は其頃には殆んど認められませんでした。何故ならば私の思想は或る定まつた外的の目的即ち建築家になるといふ事に傾いてゐたからです。併し兎も角も私は私を捉へた新しい眞摯な生活を認めることが出来ました。而してこの變化を自分で覺えて置くために私は今や洗禮名の最初の名の代りに最後の名を基督教名として用ゐる始めました。他の事情も亦この變化をなすべく私に強ひました、而して進んでそれは少年時代に呼ばれてゐた名の周圍に群つてゐる多くの不愉快な印象の記憶から自由にしてくれました。

四十七、フランクフルトへ

現在の職業にはもはや私が満足してゐることの出来ない時期に到達しました。そこで私は辭表を

提出しました、私を決めた所の直接の外的事件とは即ちこれなのであります。

バムベルグに於て私が政府の書記を奉じてゐた時分、私の知り合ひだつた家庭教師、フランクフルトに行き、それからフランスに行くといつてゐた若い人と私は其後交通して居りました。

彼は其後教育に従事してフランクフルトに住んでゐました、而して今ではオランダで或る商家の家庭教師をして居りました。

私は私の現在の地位を去つて建築家の地位を求めたいといふ私の希望を彼に知らせました、而して人々の種々なる生活の雜多な流れが入り交つて居るフランクフルトに於て私の目的を達し得るか如何かといふ事に就て彼の意見を徴しました。

私の友はフランクフルト生活の委細に就て精密に知つて居たので私は私の畫策を充たすべき最上の方法を教へてくれるやうにと問うたのです。

私の友は心から私の畫策に氣を入れてくれました

た、而して彼は夏の初めには再びフランクフルトで幾日かを費す積りであるといふ事を私に書いて寄越しました、而して彼は若し私が其の頃にフランクフルトへ兎も角も行く事が出来たならば其地でその全體の事柄に關してお互ひに相談するのが仕事に取掛る最上の方法であらうと言つて寄越しました。

是に於て私は直ちに翌春私の地位を去つてフランクフルトで友達と一緒にならうと確定しましたけれども斯る旅行に要する金子を何處で調達しましょうぞ。

私の個人的の費用を償ひ、バムベルグで借りた負債を返却するために今までのすべての月給を要しました。

この困難に際して私はこれまで私をよく理解してゐた私の兄に再び手紙をやりましたをして兄に補助を頼みました。

私はこの頃は特殊な窮境ヂレンマに處してゐたのです、

一方では私の現在の地位から逃れなくてはならぬといふことを非常に鋭く感じて居りました、而して又一方では例の私の變り易いといふ性質が今度こそは兄の恩寵と忍耐とを磨り減らしてしまふことを恐れました。

この窮境に立つて私は私の心の眞の状態を記さうと努めて書いた手紙を兄に送りました。内的の完成といふことに向つて不斷の努力に於てのみ私の生涯の目的を見出すことが出来るといふことを申してやりました。